

からしだね

日々のみことばの默想と、主日礼拝の準備に……

2026.2.9~2.15

2.9 月曜日	<p>「『中から、つまり人間の心から、悪い思いが出て来るからである。』」（マコ 7:21）●人間の悪は、人間の内側から出てくる。最近、各地で聞こえる外国人排斥の声は、外からやってきた人々によって引き起こされているのではない。それを叫ぶ人々の内側にある偏見や差別の心から出てきている。一方で、救いは外側からやってくる。イエス・キリストという神の言葉は、私たちの外側から無条件に与えられる。自分に期待することを止め、ただ主の恵みにすがる人生を歩みたい。</p>
2.10 火曜日	<p>「イエスは言われた。『まず、子供たちに十分食べさせなければならない。子供たちのパンを取って、小犬にやってはいけない。』」（マコ 7:27）●異邦人の存在はイエスの目には入らないのか。そうではない。民族的な隔たりや、特権の有無を超えて、まっすぐにがむしゃらに堅持される信仰をイエスは喜ばれた。「ふさわしくない」存在こそ、救い出そうとされるキリストに感謝したい。</p>
2.11 水曜日	<p>「そして、天を仰いで深く息をつき、その人に向かって、『エッファタ』と言われた。これは、『開け』という意味である。」（マコ 7:34）●イエスは耳が聞こえず舌の回らない人を癒すとき、深く息を吸い込み神の言葉を発することによってそれを行った。神はこの「神の言葉」によって創造と奇跡を行われる。私たちの日常における奇跡や神秘も「みことば」に聞くときに実現する。</p>
2.12 木曜日	<p>「『群衆がかわいそうだ。もう三日もわたしと一緒にいるのに、食べ物がない。空腹のまま家に帰らせると、途中で疲れきってしまうだろう。中には遠くから来ている者もいる。』」（マコ 8:2-3）</p>

	<p>●もし、今、三食食事が与えられているのなら、主の恵みに感謝したい。そこには私たちが飢えるのを「かわいそうだ」と思ってくれる主の憐れみがある。同時に、靈的な糧も日々主から与えられている。「福音」は私たち生きるための神からの「力」「栄養」である。(ロマ1章16節)</p>
2.13 金曜日	<p>「イエスは、心の中で深く嘆いて言われた。『どうして、今の時代の者たちはしるしを欲しがるのだろう。はっきり言っておく。今の時代の者たちには、決してしるしは与えられない。』」(マコ8:12) ●「今の時代の者」とは、世の価値観に囚われ、自分中心で生きようとする人々を指す。今の時代ではなく「永遠」の価値観を持ち、イエスという「しるし」を開かれた心で受け止めたい。</p>
2.14 土曜日	<p>「そのとき、イエスは、『ファリサイ派の人々のパン種とヘロデのパン種によく気をつけなさい』と戒められた。」(マコ8:15) ●ファリサイ派の持つ排外主義的な思いやヘロデ大王に見られる権力や自己に固執するパン種は、始めは小さくとも、大きく膨れ上がる。私たちはいつも自分の内にそのような種が残っていないかを点検したい。</p>
2.15 日曜日	<p>「そこでイエスがお尋ねになった。『それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。』ペトロが答えた。『あなたは、メシアです。』」(マコ8:29) ●イエスは私たちに「わたしを何者だと思うか」と問うている。イエスは単なる2000年前に存在した偉大な指導者でもなければ、宗教を立ち上げた教祖でもない。この世界を創造した神であり、私たち一人ひとりといつも共にいてくださる救い主である。このことを問われたペテロは、失敗や誤解を繰り返しながらも、この答えでは間違えなかった。この告白ができるならば、その他のことで思い悩む必要はない。</p>